

声

業界の



釜無工業団地協同組合
事務局長 小倉 隆彦氏

業界の現況は？

東日本大震災前までの組合員の状況は、平均して前年対比約3%の成長傾向でした。しかし、震災後は経営状況も一転し、各組合員にはさまざまな影響が出てきています。

一番の大きな影響は、先日まで行われていた「計画停電」です。計画停電時には、当然ながら機械がストップしてしまつたため、製造が行えなくなりました。また、なかには機械を起動させるのに数日かかるものもあり、計画停電時には、これらの機械は完全にストップせざるを得なくなりました。この影響により、製造量は以前の半分程度に減少してしまいました。そのため、勤務体系等の見直しも必要となり、組合員の中には、休業を余儀なくされた企業も出ていました。

その他、仕入れ先、納品先を東北地域に持つ組合員も多く、震災により、それら取引先企業との取引が行えず、モノが製造できない、製造できたとしてもその納品先がない等の影響が出ています。

今後の展開は？

先述したとおり、組合員において「停電」は事業を行う上で大変な不利益となります。そのような中で、今夏予定している「電力使用制限」は、組合員の間では非常に危惧されています。

当組合の組合員は工場などを持っているため、東京電力が計画している電力使用制限の大口需要者にあたる可能性があります。今現在でも、出来る限りの節電を行っているものの、やはり消費電力の減少は、組合員の経済活動に支障をきたします。ただ、震災によるこの厳しい状況を無視することもできず、出来る限りでの協力はさせていたただきたいと思っています。そのため、今後はどのようなにすれば組合員への経済活動の影響が最小限に済むのか等を検討していく必要があります。



組合事務所